

住民サービス向上のために

ICT利活用検討委員会から報告書が提出されました

平成26年11月に委員会を設置、以降、これまでに計15回の委員会が開催されました。3月1日にはこれまでの委員会の議論と、住民目線からの提案をまとめた委員会報告書が町長あて提出され、意見交換会を実施しました。

●委員会での検討テーマ

『ICT(情報通信技術)の利活用による住民サービスの向上と便利で暮らしやすいふるさとづくりを実現する』

●報告書の構成

提出された報告書の構成は次のとおりです。

- ① 地域高度情報化推進の目的
- ② 川根本町におけるICT利活用の方向
- ③ 将来のまちの姿
- ④ 利活用に向けた提案

●利活用に向けた提案

10年以内に実現可能な将来のまちの姿を想定し、そこから考えられるICT利活用における提案を次の分野にまとめました。

- ・「学力の向上に向けて」
 - ・「町の活性化に向けて」
 - ・「医療・福祉・介護サービスの向上に向けて」
 - ・「高齢者の生活の向上に向けて」
- すべての提案をこの4分野に仕分け、それぞれ概要と効果をまとめています。

●提案の実現に向けて

町では、委員会からの提案を受け、直ちに実行計画の策定に着手し、提案のいくつかについては平成28年度予算に反映しています。

また、4月1日から新たに「情報政策課」を設置し、ICT利活用に迅速に取り組むよう推進体制を強化しました。

【検討委員】(◎印は委員長、以下五十音順)

- ◎森田雅文 ・ 飯野潤子 ・ 坂本 勝
- ・ 澤本英季 ・ 清水史郎 ・ 芹澤慎一郎
- ・ 藪田靖邦 ・ 山田典秀



森田委員長から鈴木町長に報告書が手渡されました。

その後、町長、副町長、企画課長との意見交換会を行いました。



【問】企画課・広報情報室 ☎(56) 22221

～ I C T (情報通信技術) を活用した 便利で暮らしやすいふるさとづくりの実現～

提案の一部をご紹介します。

町の活性化に向けて

新たな町の
情報発信基地を開設する

利活用方策

川根本町情報局の開設

概要

「川根本町情報局」を開設し、地域情報を中心に住民目線による情報発信を行う。

内容・効果

- 幅広く地域情報を発信し、地域内情報の周知と活用を呼び掛ける。
- 情報発信の質と量の拡充を図るため、NPO 法人等への運営を検討する。
- 若者交流サイトを設けて、町内の若者の交流拠点の役割も担う。

学力の向上に向けて

中高生の I T 能力の向上と
この町に起業の風土を築く

利活用方策

I T キャンプの開催

概要

中高生を対象に、夏休み期間にアプリケーション開発などの I T 技術を学ぶ講座を開設し、若い世代の I T 能力を高める。

内容・効果

- 若者交流センター「奥流」を活用し、大学生などの若い世代との交流と I T 基礎学習を学ぶ。
- I T キャンプの先進地として名乗りを挙げ、当町に I T 関連の起業風土を作り上げる。
- 恵まれた通信環境を生かし、大学のゼミ合宿や社会人の勉強会を開催する。

高齢者の生活の向上に向けて

離れて暮らす家族が安心して
見守れるシステムを開発する

利活用方策

ゆるやか見守り

概要

分電盤にセンサーを設置し、電気使用量の解析から家電製品の使用状況を予測し、通常と違う行動をいち早く発見する。

内容・効果

- 日々の家電使用状況をいつでもスマートフォン等で確認できるシステムを構築する。
- 「かわねフォン」での「お元気コール」で聞き取りした健康状態等もメールでお知らせする。
- 離れて暮らす家族へ安心情報をお届けする。

医療・福祉・介護サービスの向上に向けて

町が保有するデータを有効利用し
医療や介護の現場で共有する

利活用方策

町民健康データの活用

概要

町が保有する「健康診断」等のデータと、個人の「お薬手帳」等のデータを一元管理できるサーバを整備する。

内容・効果

- 「健康診断」等のデータを電子化することで、結果表を持参することなく医療機関で受診できる。
- 治療や服薬の履歴を確認でき、問診に時間を取られることなく、医療サービスを受けられる。
- 町民一人一人の「生涯カルテ」としての展開を図る。

川根本町ホームページでは、「報告書」を公開しています。